

# びょういん癸

## 子どもの急性胃腸炎

小児科医長 粟生 耕太



冬に多い子どもの感染症として代表的なものはインフルエンザが思い浮かびますが、インフルエンザ以外にも「おなかのかぜ」と言われるウイルスによる急性胃腸炎も見ごせません。子どものウイルス性急性胃腸炎は大人の急性胃腸炎と似ていますが、こども特有の合併症を引き起こすことがあります注意が必要です。

ウイルス性急性胃腸炎は、「嘔吐下痢症」「ウイルス性胃腸炎」「おなかのかぜ」「はきくだし」などとも言われます。冬から春にかけてウイルス性の胃腸炎が流行することから乳児では冬季乳児下痢症などとも言われています。原因となる代表的なウイルスはノロウイルスやロタウイルス、アデノウイルス、サポウイルス、アストロウイルスと様々ですが、ウイルスの違いによる症状の違いは大きくはありません。

子どもでも大人と同様に嘔吐や腹痛、下痢、発熱が主要な症状となります。ただし嘔吐がひどく口から水分がとれなくなったり、大量の下痢が頻繁になったりすると子どもは大人よりも容易に脱水症などの合併症を起こします。子どもがウイルス性の急性胃腸炎に罹患すると、下痢や突然の嘔吐で始まります。半日ほど繰り返し吐くことが多く、その後徐々に嘔吐はおさまります。吐き始めに発熱することもあります。下痢は1~2週間続くことも稀ではありません。特別な治療は必要とせず、適切な水分補給で自然によくなることがほとんどですが、なかには吐き止まらずに少量の水分をとっても繰り返し吐くことがあります。そのような場合には、胃腸炎が重篤化していないか、ウイルス性急性胃腸炎以外の病気でないか確認するために医療機関の受診をお勧めします。

ロタウイルスによる急性胃腸炎では合併症を起こすことがノロウイルスなどの他のウイルスに比べて多いため注意が必要です。ロタウイルスにはワクチンでの予防も可能であり、ワクチンの対象となる乳児(生後6~14週までの初回接種)では有効な予防対策となります。

また子ども特有の合併症として稀ではありますが「腸重積」「軽症胃腸炎に伴うけいれん」「腸閉塞」「脳症」があります。急性胃腸炎によくみられる嘔吐や下痢の症状の他に下記のような症状がみられる時にはすみやかな医療機関受診が必要です。

### <注意したい合併症の症状>

- ・血便(イチゴジャムのような血便)
- ・間欠的腹痛(「おなかを痛がる」「けろっとしている」を交互に繰り返す) → 腸重積の可能性があります。
- ・けいれんを繰り返す → 軽症胃腸炎に伴うけいれん(胃腸炎関連けいれん)の可能性があります。
- ・意識が普段と違う → 脳炎・脳症の可能性があります。
- ・おなかがぱんぱんに膨れる → 腸閉塞の可能性があります。



大和市立病院では、昨年1年間で1,239人のお子さんが小児科に入院しました。そのうち急性胃腸炎のお子さんは58人で、補液などの入院治療を受けました。3月・4月にはロタウイルス、11月・12月はノロウイルスが、急性胃腸炎の主な原因となっていました。

もちろん急性胃腸炎に罹患した子どもすべてが入院するわけではありませんが、乳幼児を中心に子どもでは適切なホームケアや治療が必要となります。

# HCU 開設にあたって



**HCU (ハイ・ケア・ユニット)** は、およそ8ヶ月の準備期間を経て、11月1日から稼働を開始しました。HCUの病床数は8床で、診療科は小児科を除く全診療科です。対象は意識障害や急性呼吸不全、急性心不全、手術後など全身状態が変化する可能性が高く、高度な医療を必要とする方々です。HCUリーダー医師は循環器内科医師が務め、看護師は14人で交代勤務をしています。

1日でも早く患者さんが回復できるように治療とケアのバランスを図りながら、早期回復を目指す医療を行っています。また急な入院、全身の管理が必要な患者さんのご家族も不安が大きいと思います。患者さんとご家族を支えていける看護を目標に取り組んでいます。

チーム医療として薬剤師や臨床工学技士、リハビリスタッフとも連携を取り、スタッフ間で協力をしています。スタッフはやりがいを持って、患者さんとご家族に向き合っています。

HCUは始まったばかりですが、地域の皆様や医療関係者の方々から信頼されるHCUを目指して日々、努力をしております。今後ともよろしくお願い致します。



## 【腰痛への対策】

リハビリテーション療法科

齋藤和輝

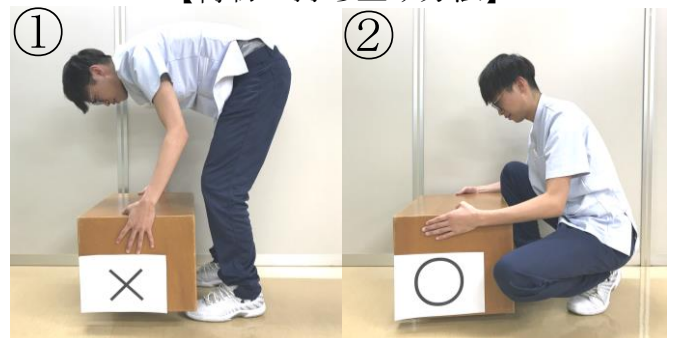


日常生活や仕事をしている時に「こ・・・腰が痛い」と、思ったことはありませんか？湿布を貼っても痛みが軽くない、安静にしても痛みが変わらないという人はいませんか？これは「慢性腰痛」に分類されます。レントゲン上で骨に異常がない（非特異的）と診断されたが慢性的に腰痛が生じている人の割合は、腰痛を患っている人全体の85%程度だと言われています。

慢性腰痛の要因としては力仕事が多い職種、同じ姿勢で過ごすことが多い、姿勢の不良（ねこ背など）、柔軟性の低下、筋力の衰えなどが考えられます。

人によって腰痛の要因は様々ですが、共通して言えることは腰への負担を軽減する必要があるということです。以下に、日常生活でも行える腰部への負担を軽減させる為の方法を記載します。

### 【荷物の持ち上げ方法】



①の画像は膝をやや伸ばし気味で、体を倒すようにして荷物を持ち上げています。

②の画像は膝を曲げて、荷物をなるべく近づけて体を真っすぐにして持ち上げています。

①のほうが一見すると良い姿勢に見えます。しかし、この姿勢は腰椎や後方の筋肉・靭帯への負荷が増大するので、実際には不良な姿勢での荷物の持ち上げ方となります。

一方、②のような姿勢で荷物を持ち上げれば、椎間板内圧の低下、斜めに引き違う力（剪断力）の減少、筋肉・靭帯への過度な伸張が生じないことによって負荷が軽減されます。

毎回しゃがみ込んで荷物を持つのは大変ですが、生活習慣として取り入れていくことで腰痛が軽減するかもしれません。ぜひ、活用してみてください。

## 病院満足度調査の結果について



平成 29 年 10～11 月に院内の患者さんを対象に、患者満足度調査を実施しました。実施結果は以下の表のとおりです。

前年度の満足率結果と比較し、外来での環境面（院内施設）及び採血室での順番待ち表示に対して、満足率が高いことが分かりました。

一方で、来院～診察までの待ち時間については、満足率が低いままとなっておりますので、引き続きより一層の満足率向上を目指してまいります。

全体	環境面(院内施設)					職員の対応		
	案内・表示	トイレ	売店	食堂	ロビー待合室	言葉使い・態度	身だしなみ	分かり易さ 説明の
満足率	91.7 (95.7)	93.4 (88.6)	92.7 (93.9)	85.7 (88.0)	-	96.7 (97.7)	100 (99.4)	97.5 (97.1)
( )内は前年度結果	91.5 (91.9)					98.1 (98.1)		
上段は入院 下段は外来	88.8 (83.6)	85.2 (83.1)	87.7 (87.0)	78.6 (77.6)	84.8 (83.0)	95.5 (95.7)	97.4 (97.3)	92.3 (92.0)
	85.3 (78.1)					95.1 (95.0)		
全体	病状 治療 検査の 説明			待ち時間等			総合	
	十分な説明	患者誤認防止	親類知人への紹介	来院～診察	診察～会計	順番待ち表示 採血室		
満足率	94.2 (89.2)	100 (98.8)	94.0 (95.0)	-	-		91.6 (93.2)	
( )内は前年度結果	98.3 (97.3)	95.8 (95.7)	89.1 (89.0)	38.9 (45.6)	75.4 (72.6)	97.0 (なし)	85.3 (84.3)	
上段は入院 下段は外来				56.7 (58.8)				

※満足率の指標項目は、環境面（10項目）・職員対応（3項目）・総合（1項目）で実施し、うち主な項目を抜粋しております。

満足率 = (3 と 4 の数) ÷ 回答数 × 100 (1 = 不満、2 = やや不満、3 = 満足、4 = 非常に満足)

ただし、「病状、治療、検査の説明」については、1 = 説明がなかった、2 = 説明があったが、理解できなかった、

3 = 説明があり、十分理解できた、としています。



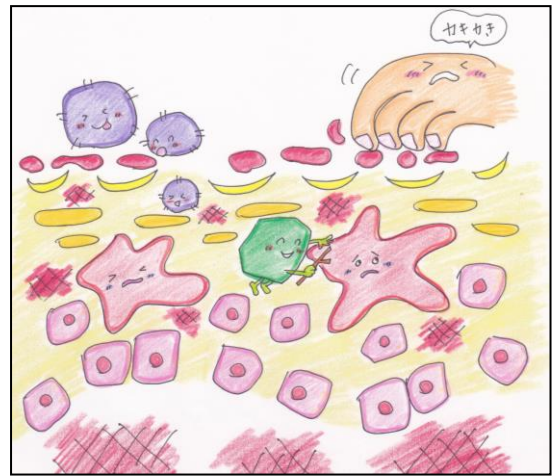
### 4階南病棟 看護師長

## Staff Interview

今回は、特技を職場で活かし **Nurse:木村 あさ子** ている職員を紹介します



木村さんは現在、小児病棟の師長として活躍されています。当院に就職した当初から小児病棟一筋で、小児の看護においてスペシャリストです。木村師長は、小学生の頃からイラストが好きで、現在では、その才能を職場で大いに発揮しています。小児アレルギーエデュケーターの資格を持ち、小児アレルギー疾患を持つ患者や家族への情報提供、病棟スタッフへの教育として、左下の写真の様な通信を、かわいいイラストを交えながら手書きで発行しています。また、小児に自分の疾患を理解し、自分の疾患と向き合ってもらいたいという想いから、右下の写真の様に、絵本形式で疾患の説明などを積極的に行っています。その他にも、かわいらしいイラストが描かれた教材で、子供たちに飽きさせないように工夫し、ケアを行っています。また院外では、市から依頼を受け、シリアスでスキンケア教室を年2回開催し、毎回大好評だそうです。木村師長は、このようなイラストを書くことがストレス発散にもつながっているそうです。今後もかわいいイラストで子供の不安を和らげていってほしいと思います。



## 地域包括ケア病棟について

### 7階南病棟 看護師長 松本文子



平成30年1月、当院に「地域包括ケア病棟」が開設しました。開設に伴い、「地域包括ケア病棟」についてご紹介したいと思います。地域包括ケア病棟は、急性期治療後の患者さんに対して、退院復帰支援を主として行う病棟になります。



・地域包括ケア病棟では、急性期治療終了後、療養やリハビリテーションを一定期間行うことができます  
急性期治療終了後、病状が安定するまでもう少し入院が必要な場合や、入院中に体力や筋力が低下してしまい、リハビリテーションを継続して行う必要がある場合があります。医師が入院継続の必要性を判断した場合は、一般病棟から地域包括ケア病棟に転棟、入院の継続ができます。

・地域包括ケア病棟では、患者さんの状態に合った退院復帰支援(在宅、施設等)を行います  
地域包括ケア病棟では、自宅退院時の社会資源の導入や在宅退院調整、療養先が在宅以外(施設など)の場合の施設退院調整などを行います。医師、看護師、理学療法士、ソーシャル・ワーカー、在宅(施設)ケアスタッフやサービス機関と連携し、患者さんの状態に合わせた退院復帰支援を行っています。

スタッフは、「患者さん、ご家族に寄り添う看護」を目標に日々看護を行っています。患者さんやご家族が安心して入院生活を送ることができ、安心して退院できるよう支援をさせていただきます。どうぞよろしくお祈りします。

